

にんじんと「ぼうとだいこん (岡山県)

むかし。めつたにおふろをわかさなかつたころのおはなしです。

あるとき、おばあさんが、おふろをわかしました。すると、畠でだれかが、があがあ、があがあ、うるさくしゃべつているのが聞こえました。おばあさんが聞いていると、だいこんとにんじんと「ぼうが、

「おばあさんが、おふろをわかしたぞ」

「わしらはめつたにおふろになんかに入れないから、入れてもらおうじゃないか」

「そうだ、そうだ、入れてもらおう」といつていきました。

「だいこんとにんじんと「ぼうは、おばあさんのうちに来て、

「おばあさん、おばあさん。あとでいいから、お風呂に入れてください」とたのみました。

おばあさんは、

「はいはい。なんぼでも入りなさい。せつかくわかしたんだから」といいました。三人は、喜んで入れてもらうことになりました。

にんじんと「ぼうが、

「だいこんさん、先に入つてくれ」というと、だいこんは、

「いんや。わしは時間がかかるから、あんたたちが先に入つてくれ」といいました。にんじんと「ぼうは、

「でもなあ。熱いかもしだれんし、ぬるいかもしだれんしなあ」といいました。だいこんは、

「熱くてもぬるくても、もんくをいつてはいけないよ。もらい湯なんだから」といいました。

すると、にんじんが、

「それなら、ごぼうさん、先に入つてくれ」といいました。

「いんや。にんじんさんが先に入つてくれ」と、ごぼうがいつたので、にんじんが最初に入りました。

お湯はたいそう熱かつたのですが、にんじんは、

「おふろつて、こんなもんだ」と思つて、熱いのをじつとこらえて入つていきました。それで、お湯から上がって来たときには、からだがまつかになつていきました。

「こんどはごぼうさんが入れ」と、にんじんがいうと、ごぼうは、

「うんにや、だいこんさん、先に入つてくれ」といいました。

「いんや、わしは時間がかかるから、あんたが先に入れ」と、だいこんがいつたので、しかたなく、ごぼうが入りました。

お湯は、熱くて熱くてたまりません。ごぼうは、

「こんなに熱くては、ゆっくりつかつていられない」といつて、すぐにおふろから飛び出しました。それで、からだはまづくろなまでした。

最後にだいこんが入りました。ふたりが入つたあとなので、お湯は、熱くもぬるくもなく、ちょうどいいかげんになつていきました。それで、ゆっくりゆっくりつかつて、きれいにきれいに洗いました。だいこんは、からだがまづしろになりましたとさ。

おしまい